

加古川市立中央図書館だより

(発行) 加古川市立中央図書館

〒675-0101

加古川市平岡町新在家1224-7

(TEL) 079-425-5200

(FAX) 079-425-6696



ぶっくガーデン

NO.268 - 2025年3月 (URL) <https://www.lcs-saas.nexs-service.jp/kakogawa/>

人生は出会いと別れの繰り返し -「別れ」に関する本を集めました-

私たちは人生の途上において、出会いと別れを繰り返して生きているといってもいいかもしれません。そして、別れの相手は人だけでなく、ペットのような動物である場合もあるでしょう。また、3月は卒業、退職など別れが訪れる時期でもあります。今月は「別れ」、「卒業」、「旅立ち」などをキーワードに本を集めてみました。

・「師弟炎炎」 倉橋 羊村 本阿弥書店 911.3-ク

師弟関係も出会いがあって別れがあります。別れの形は、師を乗り越える場合もあれば、確執によることもあります。著者は俳人であることから、正岡子規と高浜虚子、水原秋櫻子などを取り上げて師弟の出会いと別れについて書いています。

・「チップス先生、さようなら」 ジェイムズ・ヒルトン 新潮社 933-ヒ

先生との別れをテーマにしたものでは、ヒルトンの本作品が有名です。イギリスのブルックフィールドという架空の学校の教師チップス(愛称チップス)の母校や生徒、そして妻への愛を軸に、周りに屈せず自ら信ずるものを守るという生き方を描いています。

・「犬との別れ」 三田 誠広 バジリコ 914.6-ミ

長く一緒に暮らしているペットなどの動物との別れも本当につらいものです。ちょっとしたきっかけで、ハスキー犬を飼うことになり、共に暮らした15年間を描いています。

・「さよなら、あの日の動物たち」 舟崎 克彦 時事通信社 480.4-7

子どものころからいろんな動物と接してきた著者の目から、それぞれの動物との出会いと別れ、思い出などを絵と文を交えて語っており、読む者の心を温かくしてくれます。

・「日本人はなぜ『さようなら』と別れるのか」 竹内 整一 筑摩書房 121.0-タ

外国語で別れの言葉は「お元気で」とか「また会いましょう」などの意味を含んだものが多いようですが、日本語では、そのような前向きな言葉ではなく「さようなら」(そうであるならば)と言います。著者はこの「さようなら」という言葉は日本人特有の死生観が表れているとしています。

・「別れの美学」 松本 侑子 角川書店 914.6-マ

別れには恋に関すること…すなわち「失恋」も含まれます。「失恋」は悲しい別れですが、著者は「別れは人を弱らせるけれど、その悲しみが愛情の大切さや、人への優しい接し方を教えてくれる」と書いています。

・「わが友の旅立ちの日に」 安野 光雅 山川出版社 914.6-7

別れについて、というよりも読者に向かってそれぞれの旅立ちに際してのメッセージともいえる本です。エッセイの形で書かれており、私たちが今の時代にどのように生きていくか、についてもやさしく語りかけてくれる本です。

・「さよならの力 大人の流儀」 伊集院 静 講談社 914.6-イ

妻や弟を失うという悲しみの中で、やがて見えてくるものがあつたと著者は語っています。「別れ」は力にもなるということでしょうか。類似のテーマで著者には「別れる力 大人の流儀3」もあります。

・『サヨナラ』ダケガ人生力 松下 緑 集英社 921-マ

漢詩は読み下して鑑賞することが基本ですが、漢字カタカナ交じりによる七五調にすることは、江戸時代から行われた遊び心満点の漢詩戯訳だそうです。有名などころでは井伏鱒二の「サヨナラダケガ人生ダ」(「厄除け詩集」所収の「勧酒」の訳)があります。本書は著者が別離や人生の哀歓に関する漢詩を、その七五調にしたものです。

■■ 図書館カレンダー ■■

★開館時間 月～土曜日: 午前10時～午後8時 日・祝休日: 午前10時～午後6時

★休館日 第2・第4月曜日(祝日のときは翌日が休館)、資料整理期間、年末年始(12/29～1/3)

【3月の休館日】 10日(月)、24日(月) 【4月の休館日】 14日(月)、28日(月)

* * 図書館からのお知らせ * *

●図書館利用者アンケートのお礼

去る2月8日(土)から2月21日(金)に実施いたしました「図書館利用者アンケート」においては利用者の皆さまにご協力をいただきありがとうございました。

いただいたご意見などは今後の図書館サービスや運営の参考としてできるだけ反映させていくようにいたします。

なお、アンケート結果は、集計できしだい公表させていただきます。

●デジタル化社会の中での図書館

すでにご周知のとおり昨年発表されました文化庁の調査によりますと1か月に全く本を読まない人が62%にのぼることがわかりました。前回調査の平成30年度までは50%未満の状況が続いていましたので、ここ5年ほどで一気に本を読まない人が増えたことになります。

本を読まない人も、毎日インターネットなどで文字活字情報には触れている人が75%いることもわかっていますので、デジタル化社会の進展で情報機器の操作時間が増え、情報についてもスマートフォンやパソコンにより入手することが一般的になりつつあります。

一方、デジタル化などの社会の変化の影響は書店にも影響し、出版文化産業振興財団の調査によると全国の1/4以上の市や町などの自治体内には全く書店がないという状況になっています。

いろいろな考え方はあるでしょうが、必要な情報を入手することとは別に、読書(紙でも電子でも)することは脳の前頭前野を活性化して、考える力や生き生きとした活動に効果があると言われています。時代の変化の中で、図書館はアナログ、デジタルなどいろいろな資料や手法を通じて利用者の皆さまに資料と情報をお伝えできるようにしていきたいと考えています。



「桜」についての本はいかがですか … 春本番までもう少し



・「桜と日本人ノート」	安藤 潔	文芸社	479.7-ア
・「桜」	勝木 俊雄	岩波書店	479.7-カ
・「桜が創った「日本」」	佐藤 俊樹	岩波書店	479.7-サ
・「桜紀行」	蔵並 秀明	武田出版	479.7-ク
・「桜」1・2	有岡 利幸	法政大学出版局	627.7-ア
・「桜あそび」	岡村 比都美	WAVE 出版	627.7-オ
・「桜の文化誌」	コンスタンス・L・カーホカ	原書房	627.7-カ
・「桜」		自由国民社	627.7-サ
・「桜と日本人」	小川 和佑	新潮社	914.6-オ
・「日本の名随筆 65 桜」		作品社	914.6-ニ

行事のお知らせ(児童)

●親子えほんの会(毎月第1金曜日)

【日 時】 3月7日(金)

① 10:30~10:45

② 11:00~11:20

【対 象】 ① 0歳の子どもと保護者

② 1歳から3歳までの子ども
と保護者

【定 員】 各 15 組(先着順)

●えほんのじかん(毎月第2・4土曜日)

【日 時】 3月8日、22日(土)

14:00~14:30

【対 象】 3歳以上の子ども

【定 員】 30人(先着順)

●おはなし会(毎月第1・3・5土曜日)

【日 時】 3月1日、15日、29日(土)

14:00~14:30

【対 象】 4歳以上の子ども

【定 員】 30人(先着順)

◎場所は、すべて「おはなしのへや」です。

